

# インディアナ日本語学校便り だいごう 第11号

令和5年8月5日事務所 317-255-1631 メール [ijls@indiana-j-school.net](mailto:ijls@indiana-j-school.net)

(HP) <http://www.indiana-j-school.net>

校長 森 勝義

## 「補習授業校とは？」

### ～インディアナ日本語学校とは？～

校長 森 勝義

夏休み中における転入生ご家庭との「面接」を通して「補習授業校とは？」また、「日本語学校とは？」「学校の設立目的」などを改めて理解する契機となりました。本校は今から42年前の昭和56年（1981）年に開校され、多くの先人の方々の心血を注ぐご尽力の積み重ねで、今日があります。補習授業校の文部科学省の定義では、「現地校、国際学校等に通学している日本人の子どもに対し、土曜日や放課後等を利用して日本国内の小学校または中学校の一部の教科について授業を行う教育施設」となっており、「一時帯米者の子女が帰国後の日本の教育環境や社会に順応できるように、日本の教育に準拠した主要教科の授業を日本語で行うこと」となっています。

インディアナ日本語学校は在留邦人（複数の企業等や個人）が共同で設置した教育施設です。校舎借用料をはじめとした様々な政府支援を受けて運営されています。また、学校教育法上の「学校」ではなく、パブリックでもプライベートでもない両方の側面を持つ学校といえます。

そして本校が、実際に保護者の支援がないと日常運営成立せず、「保護者の立場」学校と呼ばれる所以でもあります。

もう一つ、本校で忘れてはならないのは、「家庭の役割」です。本校は本来、保護者（在留邦人）が作られた学校であることを踏まえて「家庭は第二の教室、保護者は第二の担任」であるという位置づけです。本校でも宿題などの家庭学習では国内の学校では考えられないほど、保護者に見ていただいております。

また本校の担任の役割が非常に大切になってきます。国内の講師（教師・常勤教師）とは違って非常勤教師として、本校では「土曜日だけ」勤務していただいています。それでも毎週土曜日の授業にあたっては、5時限分の授業の教材研究と授業準備（プリント類）等に加えて宿題の添削、「学習の記録」作成など、勤務時間以外の仕事になります。しかし、どの先生方も海外（インディアナ日本語学校）で学ぶ児童生徒のために、バイリンガルとしての先輩として「友に学び、日米の架け橋になってほしい」という熱い願いを持って、週一回の授業に臨んでおられます。

私自身、毎週、先生方の授業を参観していますが、どのクラスでも児童生徒の授業を受ける態度は真剣で、目が輝いています。担任の先生方が気配り、目配りを常にしている、一方通行の授業にならないように授業を展開されていることが素晴らしいと思います。

月曜日から金曜日は現地校で、英語漬けの毎日、そのストレスを少しでも解消するように、日本の文化、主要教科（国語・算数・数学・社会）の教養を身につけさせるよう、先生方も日々、努力され、それに答えようとしている子どもの姿勢には頭が下がり、胸が熱くなります。私も全力で支援していきます。中休みや昼休み、楽しくお友だち同士や担任を囲んで談笑している姿はとて微笑ましく、私もつい聞き入ってしまいます。

保護者の方々のご協力をいただきながら、学校・家庭・地区で協働しながら温かく子どもたちを見守っていきましょう。よろしく願いいたします。

私は、夏休みに家族で、大分県別府市に車で、旅行へ行きました。私は、九州地方に行くのが初めてだったので、この旅行がとても楽しみでした。そして、本州から、九州をつなぐ、関門海峡大橋を渡った時、そこから見えるけしきはとてもきれいで、これから起こる旅行がとてもわくわくしました。

福岡県から南に行くと大分県につきます。目的地の別府市につくとまず「地獄めぐり」をしました。「地獄めぐり」というのは、温泉の成分によって、赤くなったり、白くなったり、青くなった温泉などを回る観光のことです。私は「血の池地獄」「海地獄」「鬼山地獄」というところに行きました。色が変わった源泉を見ると、なぜこんな色になるのだろうと思いました。アメリカにもイエローストーンという、似たようなところがあるらしいので、いつかそこにも行ってみたいと思いました。

「地獄めぐり」が終わると、ホテルへ行きました。私たちがとまったホテルの名前は「杉乃井ホテル」というものです。「杉乃井ホテル」には、いろいろな館があり、「宙館」「本館」「中館」「虹館」さらには新しく「星館」が出来るそうです。私たちは「宙館」にとまりました。杉乃井ホテルの、ばんごはんと、朝ごはんは、どちらも自分の好きなものを食べることができ、とてもおいしかったので、食べ過ぎてしまいました。

次の日は、私と弟とお父さんで「アクアビート」というプールでたくさん遊びました。お母さんは、その間、ホテルの中にあるスパに行って、マッサージをしてもらい、リフレッシュしたようです。プールには大きなスライダーがあり、すべてみたかったのですが、弟の身長が足らず、滑ることができませんでした。それでも、とても大きなプールで楽しかったです。夜には、大浴場に行きました。アメリカでは大きなお風呂がないので、久しぶりに入る、大浴場は、とても気持ちよかったです。

この夏休みの旅行は、とても楽しかったです。今度は新しくできる「星館」にも泊まってみたい、また、大分に行きたいなと思いました。



ヒゲ森の言葉の森・探検



ふ げん じつ こう

# 不言実行

あれこれ口に出さず、黙って行動すること。

類語「訥言敏行(とつげんびんこう)」

一日、生きることは、  
一歩、進むことでありたい。

湯川秀樹(ゆかわひでき)

1907年～1981年。理論物理学者

今日を懸命に生きよう。一歩ずつ進むと、数年後には、  
見違えるほど成長した自分になっているはずだ。